

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

地域医療連携便り 令和5年度 第1号

当院の理念

こどもからおとなまで「大切な命を守り、県民に貢献する」病院



<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>

Please check the URL/link. ▶

〒901-1193

沖縄県南風原町字新川118-1

Tel:098-888-0123 (代)

FAX:098-888-1212 (地域医療連携室直通)



病院長・地域医療連携室長紹介

今年度、院長へ就任した福里吉充（ふくざとよしみつ）と申します。よろしくお願いいたします。

2006年4月に開設した当院、早いもので18年目を迎えました。皆様ご存知のように、当院は、こども病院を併設した、「おとなとこどもの総合医療センター」です。「こどもからおとなまで『大切な命を守り県民に貢献する』病院」の理念を掲げ、「こどもも診る。おとなも診る」という姿勢を貫いてきました。



福里 吉充

この「理念」を追求するため、当院は、7つの大きな機能を持っています。救命救急医療、高度多機能医療、小児医療、周産期医療、精神身体合併症医療、離島・へき地医療、臨床研修病院機能の7つです。コロナ禍においても、この機能を維持してきました。この時は「コロナも診る。非コロナも診る」のスローガンを立て、お互いを鼓舞しあい、コロナ禍を乗り切りました。令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症は第5類感染症へ変更されました。もちろん、コロナウイルスが終息したわけではありません。コロナ診療は、今後も内容を変えながら継続されることとなります。

今、医療の現場では混乱が起きています。5類変更後は、全ての医療機関がコロナ診療を行う事になりましたが、現実はその簡単ではありません。むしろ、コロナ禍の時よりも複雑で解決困難な問題が多発しているようです。

とはいえ、いかなる場合でも、当院の立場は一貫したものです。「理念」に従って、7つの機能を維持・発展させながら、県民の生命を守るために一丸になるということです。当院は、県民20万人の署名で後押しされ、県民に強く請われて開設した病院です。そういう歴史を振り返るたびに、「県民へ貢献するという」我々の使命感は、さらに強固なものとなっていきます。

今後も、全ての連携機関と協力して、県民の健康を守るために尽力していくつもりです。皆様、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

脳卒中ケアユニット（SCU）6床増床



副院長兼脳卒中センター長
長嶺 知明

地域の先生方におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。

【コロナ禍に於ける脳卒中診療】

2020年1月に日本で最初のCOVID-19陽性患者が確認された後、8回の感染拡大の波があり多くの方が感染され日常の診療が大きく制限されました。脳卒中診療に於いても感染対策の練り直しを行い、特に時間との闘いである急性期脳梗塞に対する脳血栓回収療法ではPCR検査と同時並行でFull PPEを行いながら治療を行いました。また、COVID-19陽性のくも膜下出血や脳動静脈奇形からの出血患者を受け入れ、感染防御下の顕微鏡手術や脳血管内手術を経験させていただきました。予定手術などは診療制限を迫られましたが、脳卒中診療に於いては診療制限を行わずに乗り越えることができました。これも、地域の先生方のご協力によるものと思われ、感謝申し上げます。

【津梁ネットワークを活用した緊急画像転送システムの運用】

地域の先生方から患者をご紹介いただく時に、少しでも治療開始を早められないか検討した結果、沖縄県医師会のご協力もあり津梁ネットワークを活用した緊急画像転送システムの運用を2022年8月より開始しました。特に、急性期脳梗塞患者に対する脳血栓回収療法では早期の治療開始に多大なる貢献をしております。まだ数カ所の病院との連携ですが、今後活用を広め、シームレスな脳卒中診療を目指したいと存じます。

【脳卒中ケアユニット（SCU）6床増床のお知らせ】

当院では質の高い脳卒中診療を維持する為に、2019年4月より多職種からなる専属の脳卒中チーム（医師、看護師、リハビリスタッフ、栄養士、MSW等）を配属し、脳卒中急性期の治療、看護ケア、リハビリを集中的に行う脳卒中ユニット（Stroke Unit: SU）3床を立ち上げ、2020年12月には脳卒中ケアユニット（Stroke Care Unit: SCU）3床へ発展的に移行しました。その後、地域の先生方からの脳卒中患者の紹介も増え、SCU3床はほぼ満床状態で在室日数も5日以下という状況となりました。脳卒中患者に対するケアが十分に行えないとの判断から、2022年4月に脳神経病棟を5階西病棟から5階東病棟に移動し、SCUを6床に増床する方針としました。このほど、SCU病棟の改築が終了し2023年6月5日よりSCU病棟6床運用を開始しました。今まで以上に多職種による脳卒中の診療体制を充実させ、地域の先生方のご期待に沿いたいと存じます。

【最後に】

地域の脳卒中診療の発展のため、脳卒中診療医師、看護師、リハビリスタッフ、栄養士やMSWの多職種で構成された脳卒中診療チームは、今後もチーム一丸となり精進していく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。また、急を要さない脳血管障害の患者におきましても、脳神経内科と脳神経外科で適切な治療を検討させていただきますので、外来へご紹介頂ければ幸甚に存じます。



心臓血管外科

2023年4月

“ぱいかじ大動脈センター”設立

2020年(令和2年)10月に循環器病対策推進基本計画が策定され、健康寿命の延伸および循環器病の年齢調整死亡率の減少を目指すこととされました。2022年(令和4年)3月には沖縄県循環器病対策推進計画が策定され、循環器病対策を総合的に推進することとなりました。なかでも大動脈緊急症を含む大動脈専門治療に関しては心臓血管外科の役割が大きく期待されています。

当科では循環器病対策推進基本計画策定される1年前の2019年10月に大動脈緊急症を含めた超急性期疾患の救命率向上のために早期の治療介入目的に“Mobil CVS”と銘打って心臓血管外科に特化したドクターカーを導入しました。

さらに、2023年4月に大動脈専門外来を設置し、急性期での治療介入から慢性期、遠隔期までの継続治療による健康寿命の延伸、QOLの向上を目的とした診療と疾患の広報・周知を行っています。対象は他院もしくは健診などで大動脈瘤を指摘された患者様や治療を受けたが診療の途絶えている患者様、血縁者に大動脈疾患を有する結合組織異常を疑われる患者を対象としています。また、セカンドオピニオンや治療を受けた後の定期通院を行っています。

また、Mobil CVSおよび大動脈専門外来、地域医療連携ネットワークを3本の柱として2023年4月から県内唯一の大動脈疾患に特化したセンター病院として“ぱいかじ大動脈センター”の設立しました。これらのプロジェクトには梅村武寛先生(前救命救急センター長)、平良孝美様(元副院長)をはじめとする多くの皆様のご尽力を賜りました。今後、県内外、離島を問わず、多くの患者の救命と共に沖縄県民の健康寿命の延伸を支えられるように努力していきます。

心臓血管外科部長 宗像 宏

心臓血管外科副部長 阿部 陸之



看護師特定行為研修開講

地域医療がつながる -ケアの拡がりとケアをつなぐ-

キャリア開発支援室 川平 由美

令和5年2月 看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省より指定を受け、4月から6名の特定行為研修生を迎えました。

地域医療の一翼を担う急性期医療の現場において「大切な生命を守り、県民に貢献する」理念の下に、個人の尊厳への深い配慮と倫理性を備え実践能力を発揮し、チーム医療において期待される役割を推進できる看護師の育成を目指しています。看護は24時間、患者さんの傍にあり、病態の変化を包括的に捉え、変化に的確に対応できる実践能力と「医療」と「生活」の両方の視点をもって、多職種や関連機関と連携、調整を図ります。患者さんにとっての利益を共通の目標とし、互いの専門性を尊重しながらケアの継続を図る事は、患者中心のより質の高い医療を提供できる事に繋がります。

6名の特定行為研修生は、これまでの臨床経験から「特定行為ができれば、患者さんの苦痛を軽減し、時宜を得た支援が可能になる」と考え、キャリアを切り開く覚悟をもって学びを深めています。研修で学ぶ「臨床推論」の思考過程は、患者の状態の変化を予測しながら病態や治療だけではなく、患者さんのニーズや気がり、健康問題についてアセスメントし臨床判断につなげます。特定行為の実践によってケアの幅は拡がり、ケアをマネジメントする力が求められます。

研修運営を通して、特定行為研修修了者(特定行為実践看護師)の実践と活用が、さらに地域医療をつなぐ役割を果たす事を実感しています。



キャリア開発支援室



受講生



指導医との演習風景

地域医療科紹介

2020年度より地域連携室の相談役になり「地域医療科」で2年間のソロ活動を行ってきましたが、今年度から当科のメンバーが4人に増えました。メンバー全員が離島診療所の勤務を経験した家庭医の集まりであり、基本理念を共有した仲間です。

当科は「患者の状態に見合った、安全で連続性のある医療を地域の皆様に提供する」という理念に基づき、内科の一員として外来診療や入院管理などを行っています。

当科で担当した入院患者さんを加療し、入院前のADLに近づけて紹介元の先生や施設、地域へお返してできるようコメディカル力を借りながら退院の調整を行っています。また、精査が必要な方も地域連携室を通して当科外来で対応できるよう、努力していきます。

新しくなった「地域医療科」をご活用くださるよう、今後ともよろしくお願いたします。

地域医療科副部長 神山佳之



神山佳之 長田健太郎 下里美由希 山城啓太

紹介・初診の予約・入院調整患者の紹介方法はホームページから

当院への紹介方法はホームページの医療関係の方へ、をクリックし患者様の紹介についてから閲覧できます。また、受診予約申し込み書・事前確認シートもダウンロード出来ます。

紹介の際は、当院地域医療連携室・入退院支援部門へ「診療情報提供書(紹介状)」「受診予約申し込み書」「事前確認シート」をFAXして頂くようお願い致します。(当院の外来への紹介の際は事前調整が必要となります)

FAXが届き次第、担当診療科医師と相談後直接患者ご本人と外来日の調整・案内を行います。外来予約日が決まりましたらFAXで紹介元の貴院様へお知らせ致します。診療科によっては、1週間ほどお時間がかかることもございます。

円滑な連携にご協力をお願い致します。なお不明な点は遠慮なく地域医療連携室へご連絡ください。

地域医療連携室・入退院支援部門
看護師長 諸見謝真・富山鈴華

<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>

